デジタル・ネイティブの皆さんへ

総務省 大臣官房 秘書課 秘書専門官
田中 隆浩　Takahiro Tanaka

平成 19年 4月　総務省採用
同　総合通信基盤局電波部移動通信課
平成 21年 7月　同　大臣官房総務課
平成 22年 7月　同　総合通信基盤局総務課総括係長
平成 23年 7月　同　情報通信国際戦略局情報通信政策課 政策係長
平成 25年 6月　在ハンガリー日本国大使館二等書記官
平成 28年 7月　総務省総合通信基盤局電波部移動通信課 課長補佐
平成 29年 7月　同　総合通信基盤局電波部電波政策課 課長補佐
平成 29年 8月　現職

未来への「仕込み」

皆さんが物心ついた時、周りにはどんなデジタル・ガジェットがありましたか？携帯電話？パソコン？プレイ◯テーション？

先日、我が家にスマートスピーカーがやってきました。1歳10ヶ月になる息子は当初「こわい…」と距離を置いていましたが、数週間で「アレ◯サ、タクシー呼んで」と語りかけるようになりました（3回に1回ぐらいは認識してくれます）。物心つく前からこうしたテクノロジーに囲まれて育った子ども達が成人した時、どんな社会が広がっているでしょうか？

私が入省して最初に参加したプロジェクトが、LTEと呼ばれる携帯電話規格の導入でした。第3世代に比べて通信速度が数十倍となるこの新規格の導入は、当時も新聞の1面を飾るインパクトがありました。今から振り返ってみると、本当のインパクトとは、LTEによって常時接続が当たり前のものとなり、時同じくしてスマートフォンが爆発的に普及し始めたことで、我々が意識することなくどこでもインターネットの世界と繋がることができるようになったこと、つまり、それまでリビングのパソコンでしか体験できなかったサービスがリアルの世界に浸透したことかと思います。人はスマートフォンを相棒として知的活動領域を大幅に広げ、ある有識者の言葉を借りれば「ホモ・サピエンスから『ホモ・スマホ』という新たな存在に進化した」と言えます。

東京オリンピック・パラリンピック大会には5Gサービスが始まります。かつて携帯電話が人と人とのコミュニケーションを仲介するものだったのが、5Gの登場で、モノとモノとのコミュニケーションを担い、自動走行、生産現場の自動化、遠隔医療など、あらゆる社会活動の基盤となっていきます。当然と言えば当然ですが、こうした次世代規格は、世に出る5年以上前から国際標準化や周波数確保の活動が行われています。みなさんが入省した時には、5Gの更に先にある未来への「仕込み」をすることになるでしょう。あらゆるモノが繋がった社会、さらにその先にある未来や人の在り方を皆さんはどう想像しますか？

秘書官の仕事

総務省には6人の政務三役（大臣、副大臣、政務官）がおり、私は小林史明政務官の秘書官を務めています。NTTドコモでの勤務経験を持つ衆議院3期目の34歳、新世代の政治家です。議員としての職務もこなしつつ、政府の一員として、総務省では情報通信分野、内閣府ではマイナンバーと非常に幅広い公務を担当されており、それをサポートするのが私の仕事です。政務官に随行して、官邸、総務省、国会、議員会館を行ったり来たり、勉強の毎日です。

「日本が迎えている史上類を見ない人口減少社会、このピンチをチャンスに変える」。これが野田大臣、小林政務官はじめ総務省政務三役が共有するメッセージです。役人が日々の仕事に忙殺され、ともすれば目先の課題にとらわれがちになる中、政務からこうした長期的な視点に立ったメッセージを発信することが、省の行き先を定める上で極めて重要です。

デジタル・ネイティブの皆さんへ

冒頭の話に戻ります。このパンフレットを読んでいる皆さん、そして、その先の世代のデジタル・ネイティブの目には、今の日本はどう映るでしょうか？ICTを使えば本来こうできるのに、でもそこにまだまだ追いつけていない社会に対して非常にもどかしさを感じるのではないでしょうか。小林政務官のメッセージを借りれば「原則を転換し、そろそろ日本全体をアップデートしよう」。そのためにやるべきことが我々の前に山のように積み上がっています。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

米国連邦通信委員会（FCC）にて小林政務官と

総務省の魅力とは

朝起きて、充電していたスマホを片手に出勤。電車の中では、音楽を聴きながら新聞の電子版をチェック。昼休みにはECサイトでショッピング。帰りの電車の中では、動画配信サービスを視聴して息抜き・・・自分の一日の生活を振り返ってみても、情報通信技術（ICT）が日常生活の中で当たり前のように活用されていることが分かると思います。

総務省では、このようなICTにまつわる政策を所掌しています。ICTには、①イノベーション（技術革新）が盛んである、②ツールとして活用することで、医療・農業・交通などの多様な分野に影響を与えることができる、などの特徴があり、それを所掌する総務省の仕事は非常に刺激的で多岐に渡っています。私自身、携帯電話のいわゆるプラチナバンドの割当てや、ICTを活用した林業・農業の活性化の地域実証プロジェクト、将来のネットワークインフラを支える新技術の研究開発プロジェクト等の話題性・多様性に富んだ業務に従事してきました。このようなICTの特徴を踏まえた話題性・多様性に富んだ仕事に従事し続けられることが、総務省ならではの魅力だと思います。

現在の業務：技術系行政官とは

近年の技術革新のスピードは非常に目覚ましいものがあり、ひと昔前のSF映画で描かれていたような、音声で家電を操作したり、車が自動運転したりする社会がもうすぐそこに近づいてきています。そのような社会を支えていくのがネットワークインフラであり、その将来像をデザインしながら、必要となる新技術の研究開発プロジェクトを立案することが現在の私の業務です。

数年先の技術動向を見定めることすら難しいと言われているICT分野において、ネットワークインフラの将来像をデザインすることは容易ではありません。その際、国内外の技術動向を正確に把握することはもちろん、有識者や民間企業の方々から幅広く意見を伺うことが重要となります。一方で、幅広く意見を伺うと、議論がうまくまとまらなくなってしてしまうことがよくあります。そのような場合、議論の中からICT分野全体として協調して取り組む技術領域を特定する（＝社会にとっての最適解を見つける）必要がありますが、こんなときこそ、技術的なバックグラウンドを持ち、論理的思考に基づき最適解を導出することに長けた技術系行政官の役割が重要となります。

このような場面は総務省で仕事をしていく中で幾度となく経験していくものであり、民間企業等で働くこととはひと味違った技術的なバックグラウンドの活かし方になると考えています。

就職活動中の皆さんへ

この文章を読んでいらっしゃる皆さんにとって、就職活動の選択肢として「技術系行政官」というのはあまり馴染みのないものではないかと思います。私自身、就職活動を始めた頃は、漠然と技術的なバックグラウンドを活かして社会にインパクトのある仕事をしてみたいと思っていたくらいで、恥ずかしながらこのような活躍の場があるとは思っていませんでした。当時の私と同じような考えをお持ちの方は、是非とも一度、総務省の業務説明会にご参加頂き、技術系行政官という選択肢について検討してみて下さい。

数ある省庁の中でも、総務省ならではの魅力は、なんといっても話題性・多様性に富んだ仕事に従事し続けられることです。常にイノベーションを生み出し続けるICTに対応するため、柔軟な発想で政策を立案し続けられる環境は他にはありません。社会にインパクトのある仕事がしたい、日々新たなチャレンジが待っている環境で働いてみたいと感じたら、是非とも総務省の門を叩いて見て下さい。民間企業等では味わうことのできない技術系の活躍の場がここにはあると思います。

同僚とランチの一幕

技術系行政官という選択肢

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部
電気通信技術システム課 課長補佐
高橋 信一郎　Shinichiro Takahashi

平成 22年 4月　総務省採用
同　総合通信基盤局電波部移動通信課
平成 24年 8月　同　大臣官房総務課
平成 25年 7月　同　情報通信国際戦略局情報通信政策課主査
平成 27年 8月　国土交通省道路局道路交通管理課 高度道路交通システム推進室情報システム係長
平成 29年 7月　現職